

平成26年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	唐津市立肥前中学校		
2 所在地	唐津市肥前町入野甲2217-2		
3 校長名	五反田 進		
4 学級数 児童生徒数	8学級 159人	5 実施学年 児童生徒数	1年 41人

6 取組のねらい

ユニバーサルデザインの学習を通して思いやりの心を養う。

7 取組の実際

本校では道徳や総合的な学習の時間にユニバーサルデザインの学習を行った。

(1) 1時間目 ユニバーサルデザインについての講義

美術科の教員によるユニバーサルデザインについての講義を行った。誰でも開閉ができるドアノブやけがをしにくい画びょうなどの紹介をし、生徒の関心を高め、その必要性について理解を深めることができた。



(2) 2時間目 高齢者体験学習

唐津市社会福祉協議会から講師を招いて高齢者体験学習を行った。身体に「おもり」を装着し、階段を上ったりその介助をしたりすることを通して、高齢者の方々は、自分の思い通りに身体を動かすことができないことを実際の体験によって学ばせることができた。



(3) 3時間目 ブラインドウォーク体験学習

唐津市社会福祉協議会から講師を招いてブラインドウォークを行った。実生活の中では目から得られる情報がとても多く、目が不自由な方々は多くの情報を得られないまま生活していることを実感させることができた。実際の体験学習では肩をたたいたり、声で階段の数や曲がり角を教えて、目が見えないことへの恐怖心を幾らかでも軽減させるなど、お互いの信頼や協力が必要なことを実感できる体験にすることができた。



(4) 生徒の感想

- ユニバーサルデザインは、いろいろ障がいをもった方々だけでなく、さまざまな人に使ってもらうために、一つの物をかなり工夫して作らないといけないことが分かった。実際の製品はいろいろな工夫をしっかりと考えて製作してあるからすごいと思った。

- ユニバーサルデザインによるいろいろな製品は、だれもが困難なく生活できる素晴らしいものだと思った。また、自分も開発に携わってみたいと思った。

- 高齢者体験やブラインドウォークを体験して、想像以上に自分の感覚に自分の身体がついていかないことが分かりました。この経験を生かして、高齢者や体に障がいのある方々と共生していくにはいろいろ配慮が必要だと思いました。

8 取組の成果と課題

今回の学習や体験を通して、何気ない日常の生活の中に高齢者や身体に障がいをもっている方々にとって生活しにくい状態が多く存在していることに気付かせることができた。また、身近にあるユニバーサルデザインの製品を実際に見る、触る事で関心を高めさせることができた。生徒たちは、体験の際にユニバーサルデザインの効果や必要性を知ることを通し、そこに思いやりの心や実際の行動が大切であることを学ぶことができた。今後は生徒の思いやりのある心を行動や実践の場に繋げたい。